

# 万歳

まんざい

山口の万歳が被っていた鶏頭の烏帽子（部分）

## 万歳 ー正月のことほぎー

### ▶ 正月には一年の祈りが凝縮

正月の行事や飾りには、その年の豊作や家々の安寧などを願う、さまざま祈りが凝縮されています。

今回（1/7～2/15）は、正月に巡り来て家々を祝福する「万歳（まんざい）」という芸能、ないしそれをおこなった人々を紹介します。

「万歳」は、滑稽さを強調した芸能として近代化した、今の「漫才」の原型にあたります。

### 〔万歳と門松〕

資料①は、当館の吉川家文書にのこる正月の門付け（かどつけ）万歳の様子を描いたものです。彼らは家々の前でその家を寿ぐ祝言を唱え、歌舞しました。

この絵からは、当時の門松のさまも見て取れます。門松は、それを許された家へののみ立てられました。

門松は、本来このように一本で、家のカド（前庭）に立てられ、松などの枝の「芯」を残したものでした。

### 〔鶏頭烏帽子の万歳〕

資料①とは別に、おそらく大内氏の時代から山口を中心に門付けに回った、特別な由緒をもつ万歳の人々もありました。資料②は、彼らの被った鶏頭の烏帽子と、彼らの万歳の様子です。

江戸時代には、萩城及び城下にも門付けに出るようになり、武士の家にも上がりこんでいました。鶏頭をかたどった烏帽子の下賜や修理も、藩の重臣によって行われていたようです。

彼らは大内氏の先祖と一緒に渡来したという由緒をもつ陰陽師の末裔だと考えられており、山口市大内御堀にある乗福寺の保護を受けていました。（毛利家文庫遠用物近世後期 200）

資料②



〔鶏頭の烏帽子〕  
（一般郷土資料 1704）



資料①「万歳画」（吉川家文書 307）



万歳の様子（個人蔵）